米国占領下沖縄における天皇表象

吉本 秀子

1945 年 8 月 15 日、日本本土の人々は昭和天皇の肉声によるラジオメッセージ、すなわち「玉音放送」で敗戦を知った。 だが、同じ日、米軍設置の収容所にいた沖縄本島の人々は、収容所で配布されたガリ版刷りの『ウルマ新報』で敗戦を知った。当時、沖縄には NHK 沖縄放送局があったが、1945 年 3 月末の空襲で放送局と新聞社は破壊されており、マスメディア不在の状況が続いていた。その中で、米軍の支援で発行されたのが、この『ウルマ新報』である。その後も 1972 年まで米国の占領統治下に置かれた沖縄では、日本人の終戦体験に重要な意味を持ったと考えられる「天皇」に関するイメージは、日本本土と分離され、米国の施政権下にあった 1945 年から 1972 年までの沖縄で、どのように表象されていたのか。本稿は、沖縄の新聞二紙『琉球新報』と『沖縄タイムス』の内容分析を手かがりに、米国占領統治下の沖縄における天皇表象を考える。